



兼松<8020>、寝装具など専門商社で持ち分法適用会社のカネヨウ<3209>をTOBで子会社化



兼松は12日、寝装具やリビング・インテリア用品の専門商社で持ち分法適用関連会社のカネヨウ（東証2部上場）に対して、完全子会社化を目的にTOB（株式公開買い付け）を実施すると発表した。現在30.83%の持ち株比率を100%に引き上げる。カネヨウはTOBに賛同している。

カネヨウは兼松の羊毛研究所として兵庫県揖斐川町（現たつの市）に設立された。1951年に大阪証券取引所に上場した後、一貫して兼松の持ち分法適用関連会社として歩み、緊密な関係にある。ただ、カネヨウは従来の羽毛原料、寝装、インテリア製品、衣料生地取引を中心とした伝統的な事業にとどまっている。航空機や自動車部品の素材として採用が進むカーボン纖維に象徴される纖維事業の環境変化に対応するためには、兼松との一体的な経営が欠かせないと判断した。

買付価格は1株につき900円で、TOB公開前日の終値716円に25.70%のプレミアムを加えた。買付予定期数は約97万株。買付代金は約8億7332万円。買付期間は11月13日～12月24日。決済開始日は2020年1月6日。買付代理人は大和証券。